

関東学院

昭和40年代と平成27年の比較



平成27年現在 金沢八景キャンパス(室の木)に女子短期大学の正門に掲げられていたプレートが写真のようになりました。



昭和40年代 手前は短期大学本館 右奥は神学館です。



平成27年現在 短期大学本館はSCCに建て変わり、4階は806名収容できるベンネットホールとして、講演会・創立記念式典が行われています。右奥は経済学館として経済学部教員の研究室兼ゼミナール室等として使用されています。手前の木は、昭和32年に卒業された方々からの記念樹です。

関東学院女子短期大学は平成14年4月に改組し、大学人間環境学部として、現代コミュニケーション学科・人間環境デザイン学科・健康栄養学科・人間発達学科と発展し、平成27年4月にはさらに発展し、人間環境学部、教育学部、栄養学部としてスタートしました。平成28年4月には人間環境学部が人間共生学部となる予定です。短期大学の歴史を踏まえ、今後も発展し続けてまいります。短期大学をご卒業されました先輩方の温かなお心で見守っていただけましたら、とても幸いです。本日は、ご来校ありがとうございました。

写真協力 関東学院史資料室 作成 関東学院校友課(平成27年)



昭和30年代の大学周辺の航空写真です。手前の川が侍従川で、中央の山がハンソン山です。



平成26年の大学周辺の航空写真です。侍従川が整備されたことが分かります。ハンソン山であった場所には、人間環境学部、教育学部、栄養学部の建物があります。体育館であった場所には、看護学部の建物になりました。高層の建物は10階建てのフォーサイトと呼ばれる建物です。ハンソン山であった場所と大学の間には、現在、六浦中学校、高等学校があります。

短期大学校章



3.

輝ける富士を望みて
敬虔の道を歩まん

野の百合は今ぞ開きぬ
歓喜は胸にあふれて
室木に集いしわれら
「人になれ奉仕せよと
希望の灯高く掲げん

2.

鷗舞う平潟の辺に
オリブは甘く薫れり
友情を固くつなぎて
ひたすらな学びの日々に

「若き日に神を知れ」と
清らかなる真白き校舎
「栄光を世に示せ」と

横浜の地にこそ建てれ
信仰の光ともして
聖き樹はここに繁れり

1.

はるかなる大洋こえて
聖き樹はここに繁れり

校歌



昭和43年に建設された1号館です。この写真は木の様子から秋から冬に撮られたようです。右側1階には学生食堂の看板が見えます。



平成27年現在の1号館です。右側の建物には1階が教務課・学生生活課、2階から5階まで事務局です。左側の建物には1階がミッキーという軽食堂、3階には大学同窓会組織の燦葉会事務局と学院事務局、4階から6階は法科大学院です。



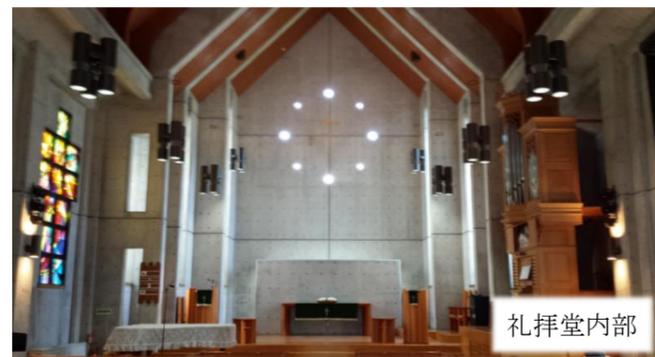
オープンチャーチ



昭和40年代の写真です。右側には短期大学本館の全体が写っています。中央にはタッピング・ポンドが見えます。歩いている学生と教員らしい方の服装に当時を感じます。



平成27年現在の写真です。手前の池がタッピング・ポンド、右側建物がSCC、中央奥がフォーサイト、左側建物が7号館で、1階には学生支援室があり、他の階は教室です。7号館は金沢八景キャンパスで一番古い建物です。



礼拝堂内部



タッピング・ポンド(TOPPING MEMORIAL POND)とは、タッピング家を記念して造られたものです。昭和37年、本学の教員であったウィラード・タッピングの妻、ヴェリン(同じく本学教員)の寄附金を基に、卒業生等の寄附金を加えて竣工されました。現在の新しい建物と共に「タッピング・ポンド」も新しくなりました。明治28年、ウィラードの父(ヘンリー)と母(ジュネヴィーブ)は宣教師として来日し、東京中学校(後の東京学院。関東学院の源流の一つ)に赴任しました。その後、明治40年、タッピング一家は岩手県盛岡に活動の場を移しました。盛岡では詩人・童話作家の宮沢賢治とも出会いがありました。宮沢賢治は、「岩手公園」と題した詩の中でタッピング一家のことをつづっており、その詩碑は盛岡市岩手公園にあります。タッピング一家の関東学院をはじめ、日本各地における宣教と教育のための奉仕活動を記念し、「タッピング・ポンド」が現在も設置されています。

岩手公園 宮沢賢治
 「あなた」と老いしタピングは
 杖をはるかにゆびさせど
 東はるかに散乱の
 さびしき銀は聲もなし
 なみなす丘はぼうぼうと
 青きりんごの色に暮れ
 大學生のタピングは
 口笛軽く吹きにけり
 おいたるミセスタッピング
 「去年なが姉はこゝにして
 中学生の一組に
 花のことばを教へしか」
 孤光燈にめくるめき
 羽虫の群のあつまりつ
 川と銀行木のみどり
 まちはしづかにたそがるゝ